
つまらない人～ホラーが怖い話～

mmf50

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

つまらない人々ホラーが怖い話

【Nコード】

N8213Y

【作者名】

m m f 5 0

【あらすじ】

ホラーが怖かった、その原因の話。

どう読んでも小説ではないけど、物語を創るのは苦手で、ついつい考えを組み立てるだけになってしまっ。

幼い頃はホラーが怖い。そういつたことは誰しもが経験しているものだと思うし、私もそうであった。それにしても何故あれほどに怖がっていたのだろうか。問いに対する答えは各個人で持っているものかと思われるが、私なりの考えを書いていきたい。

私は、気付いた時には、既にホラーが怖いものだとして認識していた。何が人に「怖い」という感情を抱かせるように作用したかなんて分からないが、いつの間にか怖くなっていた。

しかし私は怖がり過ぎである。ホラーを見て、その結果として怖くなるのは普通のことなのだが、私は新聞のテレビ番組欄で「心霊特集」という文字を見ただけで、その一日は背後に何か冷たい気配を感じ続けなければならぬ有り様であった。

家族団欒そんな時にテレビで心霊写真特集なんてやっているものなら、私は見ざる聴かざる、目を閉じ耳を塞ぎ、それでもテレビから聞こえてくる悲鳴に恐怖していた。

私自身、靈感なるものが全くなく、ホラー的な現象を目の当たりにしたことがなかった。そして私は靈感云々を信じる性質ではなかったが、完全に霊という存在を否定出来るわけでもなかったがために恐怖を消すことが出来なかった。

そんな私でも時が経てば成長するもので、次第にホラーに対して恐怖を感じなくなるのであったわけだが、こんな話を学校の先生から聞いたのだ。

何でもその先生は大学生の頃、男友達と二人で閑散とした遊園地に行ったそう。男二人で遊園地とは何やら危ない話の匂いが漂ってくるが、事もあるうにお化け屋敷に入ったそうである。閑散とした遊園地のお化け屋敷なぞの仕掛けなど怖いわけがなかったのだが、

還暦もさほど遠くない先生が今までで一番と言いつ切るほどの恐怖を、このお化け屋敷で味わったのだそうだ。先生の友達が居なくなつてその後連絡が取れずじまいになつてるとかそんな話ではなく、お化け屋敷が突然停電したのだった。雷鳴もない中での、お化け屋敷だけが停電。ブレーカーが落ちただけかもしれない。しかし、二人は停電の原因を咄嗟に判断出来ない。お化け屋敷で突然の暗闇、ビククリしたものの仕掛けだろうと思うが、いくら待つても明るくならない。どうもこの暗闇は仕掛けじゃない、もしかこれが心霊現象なのか…！そう思つた瞬間、先生と友人は二人でお化け屋敷から飛び出したのだった。

私はこの話から一つ学んだことがある。心霊現象そのものより、どんなことが起こるか分からないという状態の方が、どんなことが起こるかいろいろと想像することの方が、恐怖を感じさせる要因なのではないかと。

この観点から考えると、私が幼い頃ホラーを異常に怖がつていたことが説明出来る。

心霊特集という文字からいろいろと想像してしまつて怖かつたのだろう。目を閉じ耳を塞ぎ悲鳴だけを聞いて怖がつていたなんて、普通に番組を見る以上にあれこれ想像して余計に怖い思いをしていたんだな。

どうもここに至つてからは、他者から与えられる受動的なホラーはほとんど怖いなんてことは無くなつてしまつた。ホラー自体は客観視してしまうし、いろいろと想像する気持ちにもならない。むしろ昔より想像力が落ちているのかもしれないと考える方が怖い。

ホラーという存在も、そういう想像力が大人になつても落ちなかつた人が考えたもの、という存在になつてしまつた。

だがそれでも、自分からわざわざ心霊スポットなんぞに行かないのはやっぱりいつまでも怖いんだなと、自分の情けなさに肩を落とす

のだった。

以下、霊が見える見えない話。

私自身、霊を見たことが一度もない。だが世の中には霊を見たことがある人がいる。この違いは何であろうか。

見えない人は見えないだけなのだが、見える人は見えた霊を同じものとして認識しているのだろうか。完全に同一の存在で認識出来れば霊は存在しているかもしれないと思うが、私は見えないために思うことがある。

例えば霊がいるとして、その霊自身は戦国時代の霊で元は女、老衰で死んだがどうも死んだ時の記憶が曖昧で、男として戦場で死にたかったという生前の願望が強くて成仏できない、そんな霊だ。

この霊は一体どんな風に見えるのか。老婆として見えるのか、願望通り男として見えるのか、戦場で活躍つまり人を殺そうとしてくるのか、敵を見つけるためにただただ佇んでいるのか。それとも複雑な思いから、時によってその姿や行動を変えているのか。

霊が見える人が、この霊の思念を全て汲み取れて、かつ同じ瞬間に見えた姿が同一ならいよいよ霊は存在しない方がおかしいのだが、誰もそんなことは分からないのである。

霊の見え方が同じであるがゆえの存在の立証は無理ならば、見える人と見えない人の違いを調べれば良いのだが、やっぱり分からない。眼が違うのか、脳が違うのか、意識が違うのか。眼ならば何とかなりそうだが、脳は血流とか微弱な電気信号の測定とかでは本質的な解明にはならず、意識はイメージすら出来ない。やはり無理なよう

だ。

証明は出来ないならば、どちらが可能性として高いのか。

見える人が、霊のいない確率と見えない人の頭がおかしい確率を天秤にかけて、10割で見えない人の頭がおかしいと思うだろう。

対して、見えない人が、霊のいる確率と見える人の頭がおかしい確率を天秤にかけて、10割で見える人の頭がおかしいと思うだろう。

相容れない話であった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8213y/>

つまらない人～ホラーが怖い話～

2011年11月24日14時45分発行